

令和元年度 学校評価（教職員）

令和2年4月17日

学校運営・教育活動・組織運営・教育環境・保護者や地域との連携について、15の項目に精選し学校評価を実施した。教職員の評価結果から本校の課題を明らかにし、今後の教育活動の見直しと、生徒がよりよい教育活動を享受できるよう学校運営の改善、教育水準の向上と保障を図る。

なお、表・グラフの平均値はA4点、B3点、C2点、D1点と数値化し、総和を回答者数で除して平均を出したものである。数値の見かけ上の平均値は2.5点なので、この数値を目安として各項目の評価を分析する。回答者数は36名、15項目の平均値は3.23（昨年は、3.18）で、昨年より評価が向上している項目が多くなっている。

- 質問項目1は、昨年比0.1ポイント上昇、質問項目2は昨年と同ポイントであった。
教育目標を踏まえて各学年や各分掌が重点目標を設定している点は評価が高いが、様々な教育活動をする中で、今以上に教育目標を意識した教育実践が望まれる。
- 不登校、いじめの早期発見については、昨年比0.2ポイント上がっており、全員がB以上の評価であった。日頃の生徒観察や早急な対応を行った成果であり、サポート委員会も機能していると考えられる。
また教育相談については、昨年と同じ評価だったが、一昨年と比べると評価は低く、スクールカウンセラーや保健室での相談体制は整っているので、もっと利用するような教職員の意識の向上が望まれる。
- 生徒指導については、質問項目3は昨年比0.1ポイント上昇し、質問項目7は昨年と同じ評価であった。90%程の教職員がB評価以上であり、概ねが共通理解のもと、協働意識で生徒指導に当たっているが、さらに個々の生徒の理解に努め、研鑽を深める必要がある。
- 進路指導については、7割ほどがB以上の評価ではあるが、評価平均は昨年と同じであった。質問項目の中でここ数年最も低い状況が続いている。多様な進路希望をもつ生徒集団において、進路情報の提供や進路面談・相談等を行っているが、3カ年を見通した計画的な進路指導、生徒・保護者や教職員への進路情報の定期的な提供などをさらに充実させる必要がある。
- 職員研修については、授業公開及び研究授業、令和2年度入学生の各コース別進路計画の作成の研修会、「不登校問題」に関する講演を実施した。昨年と比較して質問項目8は昨年と同評価0.項目9で0.1ポイント下降した。
研究授業については、授業力向上は最重要課題であり、今後とも適切なテーマで実施していく必要がある。また、ICT化に伴い、年度末に自主的にICT研修が行われたのは大変良いことであった。自主的な研修が少しづつでも教職員に根付いていければと考える。
- 教職員間の連携については、昨年に比べ質問項目10と13が0.1ポイント上昇、項目11は同じ評価であった。特に、項目13の事務室・職員室の連携等については全員がB評価以上と高評価であった。分掌や学年間内での打合せ等の時間を確保するのが困難な中、創意工夫をしながら情報共有を図っていた。
- 保護者への情報提供には、ホームページや会報「双葉」、学級通信などがある。評価項目14は昨年より0.2ポイントと、2年連続で下降した。ホームページの内容の充実と適切な更新を行うこと、様々な教育活動や進路情報等について保護者や外部への情報提供を適切に行う必要がある。

令和元年度 学校評価（父母の会役員・育成会役員・同窓会役員）

回答者数 30名

本校の教育活動を見る機会の多い方々に評価をしていただいた。10項目の評価平均は3.57で昨年より0.30上昇した。10項目すべての項目で0.2~0.5ポイント上昇し、すべての項目でA(そう思う), B(どちらかとそう思う)評価が90%を超えるなど、高い評価をいただいた。

特に、項目5「教員は、生き生きと授業に取り組み、授業に集中できるよう指導の充実に努めているか」は0.5ポイント、項目1「学校は、生徒が基本的な生活習慣を身に付けることができるよう指導に努めているか」は0.4ポイントと上昇が著しかった。

日々の学習指導や生活指導の小さな積み重ねが、生徒たちに徐々に浸透しているとの評価と思われる。

項目7「学校は、保護者の相談に対して誠実に対応するよう努めているか」は、評価平均3.7と項目1に次いで高い評価を得ている。三者懇談や教育相談等での教職員の適切な対応が信頼を得ているものと思われる。

項目4「教員は、自ら学ぶ姿勢を生徒にはぐくむために、適切な課題を与え、家庭学習の充実に努めているか」は、昨年比0.2ポイント上昇しているが、質問項目では最も低い評価でありC, D評価の割合がちょうど1割いる。生徒の学力を伸ばすためには、家庭学習は大変重要であり、生徒の学習意欲を引き出す授業、そして適切な学習課題の提供等に今後も努める必要がある。

学校関係者評価では高い評価を得たが、そのことに甘んじることなく、日々の教育活動を振り返り、反省をしながら、生徒や保護者、地域から信頼される教育活動を推進していかねばならない。

令和元年度 外部による学校評価

令和2年6月1日

教職員および学校関係者（父母の会・育成会・同窓会）による学校評価アンケートの結果分析（自己評価）について、それが適切であるかどうか 本校を外から、見ていただいている関係者の4名の方々に評価を聞いていただいた。その中から具体的なご意見、ご指摘を記載する。

なお今回は、新型コロナウイルス感染防止の観点より書面により意見を収集した。

【意見等】

- 教職員に宗門校としての取り組みが理解されている。
- 宗門関係学校として、社会に果たすべき役割は大きいのでさらに教職員は尽力してほしい。
- 教職員評価で、教育目標の趣旨理解のA評価が 25%と低いように思う。宗門関係校としての強味を生かしてほしい。
- 不登校、いじめ、進路指導では、教職員の情報共有に努めている様子が伺える。一人の教員が問題を抱え込まないことが大切である。
- 甘すぎず、厳しそうきちんと評価されている。
- 全体的に平均値を上回っており、内外の評価は、妥当とおもわれる。
- 評価結果だけでなく、学校の取り組みとして何をしているか、学事報告的なものを添付してくれるとありがたい。

外部評価で、いただいた貴重な、ご指摘、意見をもとに更に日々の教育活動を充実したものとし、生徒や保護者、地域から信頼される教育活動を推進していくことを確認した。